

11月11日～12月12日
電池月間



でんち

社団法人 **電池工業会**

BATTERY ASSOCIATION OF JAPAN

〒105-0011 東京都港区芝公園3丁目5-8
機械振興会館内

電話 (03) 3434-0261 (代)
E-mail. bajapan@hi-ho.ne.jp
ホームページ <http://www.baj.or.jp/>
振替口座 東京8-91022
発行人 木村侃丘
定価1部郵送による年決め2,400円

平成15年5月1日

BATTERY ASSOCIATION OF JAPAN

日欧鉛蓄電池メーカー代表者会議を開催



昨年来よりEUROBAT (欧州蓄電池協会) から要請のあった、日欧鉛蓄電池メーカー代表者会議を4月18日に東京プリンスホテルで開催することができた。

EUROBATから当初6名の代表者来日予定が、SARS等の影響で4名および、それぞれのご婦人同伴の来日となった。日本からは田中会長はじめ鉛5社代表者と工業会関係者が出席し、4件の主要議題をきわめて友好的な雰囲気の中で、ディスカッションが行われた。

まず田中会長から歓迎挨拶と電池市場動向説明及び日本側の代表者紹介があり、続いてEUROBATのロイシュナー会長より御礼挨拶とEUの歴史と拡大への課題及び来日メンバーの紹介があった。その後、

主要議題について双方からプレゼンテーションと幅広い意見交換が行われた。

1. 日本側出席者

田中会長 (日本電池株)、大坪社長 (株)ユアサコーポレーション)、村上社長 (日本電池株)、石田社長 (松下電池工業株)、今井社長 (古河電池株)、臼井社長 (新神戸電機株)、木村専務理事ほか工業会担当部長。

2. EUROBAT出席者

Dr.ロイシュナー会長 ((独) EXIDE会長)、
ドルセッタ氏 ((伊) FIAMM会長)、
Dr.プリルホーファ氏 ((独) VARTA役員)、
ウエストギースト氏 (EUROBAT事務局長ベルギー)



〈Dr. ロイシュナー会長〉

3. 議題

1) 環境問題について

- ・ウエストギースト氏より、新たなEU指令案検討の動き(ExIAアンケート)、血中鉛濃度や硫酸規制の概況、鉛に関する自主的なリスクアセスメントの取組み状況、欧州委員会が検討を予定している将来案件等(新規化学物質、低電圧、エコラベル)の紹介があった。
- ・日本側からは、現在の鉛電池リサイクルシステムと回収・再利用の取組み概要について説明を行った。

2) 標準化の状況について

- ・プリルホーファ氏より、36V系電池の欧州規格化に関する主要活動について、その構造や端子形状に求められる特徴、カスタマーのデザイン基準等、詳細な紹介があった。
- ・日本側からは、開発急ピッチのHEV(ハイブリッド自動車)用電池の規格化と、36V系電池の端子形状規格化等について概要説明を行った。

3) 市場動向について

- ・ロイシュナー会長より、欧州における自動車の生産予測、2003年における国別の生産見込み、鉛電池の国ごとに異なるライフスパンの実態、そこから推測される国別の市場の規模、内燃機関とハイブリッド車の比率及び欧州鉛電池業界の再編状況等が詳しく紹介された。

4) 新技術・燃料電池について

- ・ドルセッタ氏より、燃料電池の種類、技術的な特徴、将来の輸送に係わる消費エネルギーの見込み、燃料の種類とCO₂発生の関係、公共輸送機関を対象とした欧州委員会のプロジェクトの概況等紹介があった。
- ・日本側からは、財団法人日本電動車両協会から資料提供いただいた、燃料電池自動車に関する実証研究の概要について説明した。

4. 今後の取組み

ロイシュナー会長から今回を新たな第1ステップとして、この代表者会議を数年毎に開催する検討や、両団体の具体的課題である技術的問題、環境問題等については、ワーキンググループ等の形で定期的な交流を進めてはどうかとの提案が出された。

両団体の代表者からは、特に異論はなく、今後とも協力して行きたいとの賛意が示された。

5. 日本の歴史と文化交流

今回の代表者会議には、欧州からご夫妻で来日されたので、会議終了後、日本の代表的な食文化の紹介と賞味をしていただいた。

また、翌日は日本の文化と歴史を理解し観賞を目的としたプログラムを準備した。特に、日本にある世界遺産として代表的な日光東照宮を中心とした見学会を開催し、ご夫婦で歴史と文化の香りに浸っていただいた。有意義な会議と共に、日本の春を十二分に堪能され一路EUエリアへと帰路につかれた。



〈田中千秋会長〉

平成15年度 第1回一次電池部会開催



平成15年4月10日、機械振興会館において梶井部会長（日立マクセル株）を議長に、平成15年度第1回一次電池部会（出席者25名）が開催された。

冒頭に、梶井部会長より挨拶があり、続いて木村専務理事の挨拶と新委員の紹介、そして3件の事務局報告並びに4件の審議が行われた。

.....

1. 梶井部会長挨拶

本年度から部会長を仰せつかりましたが、皆様のご協力をお願いしたい。

- 1) 1～2月の販売実績は前年比106%と好調であるが、前年が悪かったこともあり厳しい状況に変わりはない。
- 2) 輸入品が増加しており、外圧となっている。
- 3) 廃掃法の改正など、環境問題が大きな動きになっている。一次電池として基本的な考え方をもち、言うべきことは言う姿勢でやって行きたい。

2. 木村専務理事挨拶

- 1) 販売は今年に入り一次電池と小形二次電池が好調である。

- 2) 会議の内容は環境関係が多くなっている、活発な審議をお願いしたい。

- 3) 廃掃法の改正が進んでいるが、重要法案が多いので遅れそうな感じがある。色々な動きがあるので、動向を見極めて行く必要がある。4月に日本でEUROBATとの代表者会議があり、EU指令改定も話題になる。いずれにしても、厳しい対応が必要な状況である。

3. 事務局報告

- 1) 欧州における最近の法律動向についてEU電池指令改定にあたり意見公募が実施されている。BAJではEU対応連絡会を中心にして対応する。
- 2) 廃棄物処理法改正に関する経過
1月末に改正案がだされ、色々な経過をたどり、現在の状況に至っている旨の説明があった。
- 3) 乾電池埋立て実験結果報告
15年間にわたる、福岡大学との共同実験研究の報告書が配布され、まとめの概要報告があった。

4. 審議事項

1) 一次電池の環境に関する課題について

環境対応委員会がまとめた課題をもとに審議を行い、技術、業務、環境関連の委員会が中心になり、会合、テーマの選定と分担について至急確定させることが決定した。

2) EU指令改定に関する意見公募について

電池工業会ではEU対応連絡会を中心に対応す

ることが確認された。

3) 平成15年度事業計画について

各専門委員会より前年度の活動報告と、15年度の主要活動計画が提案され、いずれも承認された。

4) 平成15年度一次電池部会活動予算

平成14年度実績と15年度予算の説明があり、各々承認された。

平成15年度 第1回二次電池部会開催



平成15年4月9日、機械振興会館において山崎部会長を議長に、平成15年度第1回二次電池部会（鉛5社）が開催された。

冒頭に、山崎部会長より挨拶があり、続いて自動車用鉛蓄電池・新リサイクルプログラムの審議が行われた。

1. 新リサイクルプログラムの審議

1) 長期間にわたり関係省庁の指導を受け審議してきた、自動車用鉛蓄電池のリサイクルプログラムは、「有価物扱い」に絞り込み構築することで部会決定した。

2) ユーザーにリサイクル費を協力願う方式とし、目安の平均的価格の表示を行うようにして行く。

3) 新リサイクルシステムについての通知を関係省庁から発信していただく。

2. 組織変更

新リサイクルプログラムの構築は、早期に遂げることが必要なため、5月1日より、自動車用電池リサイクル特別委員会（仮称）を設ける。従来の特別プロジェクトと第三者機関設立準備WGを統合し、新組織でスピードアップを図る。

業界動向

*セイコーインスツルメンツ (SII)

体温や照明光のエネルギーを活用して半導体を駆動させる昇圧型のDC/DCコンバーターを開発した。これを用いる事で携帯機器の電力消費の削減が可能になる。
(3月3日付 日経産業)

*NTT

グループの二酸化炭素排出の抑制を目的に、固体酸化燃料電池 (SOFC) を開発する。尚実用化は2007年を予定。
(3月3日付 日経産業)

*ガートナー・ジャパン

2002年の国内パソコン市場調査によると、総出荷台数は前年比10.4%減の1,153万台に落ち込んだ。
(3月3日付)

*PMA (米)

米国におけるデジカメの普及率が20%を超え、フィルムカメラに代り一般に広がって来た。尚、米国では新製品はPCとの親和性が重視されている。
(3月4日付 電波)

*日産自動車

航空機エンジン等を手掛けるユナイテッド・テクノロジーズグループ (米) と自動車用FCを共同開発、自社生産へ。
(3月4日付 日経)

*太陽光発電協会

日本の太陽電池の出荷規模が2002年は25万8千キロワットになり、2001年の出荷を52%程度上回った。
(3月5日付 日経産業)

*東芝

ノートPCを駆動できる小型ダイレクトメタノール燃料電池 (DMFC) を開発した。2004年中の実用化を目指す。
(3月6日付 電波&日経産業)

*環境省

廃棄物処理法改正案に「ぞんざいに扱われる有価物」への事後規制の導入と「適正処理困難物」への規制強化を各々盛り込む事を見送る。但し今後も産業界との対話は継続、合理的な制度を探る考え。
(3月6日付 日経産業)

*環境省

今通常国会に提出する廃棄物処理法改正案を11日の閣議で決定、12月施行を目指す。改正のポイントは不法投棄対策の強化。
(3月6日付 日経産業)

*石油産業活性化センター

灯油から燃料電池用水素を製造する技術を開発した。2004年度までに実証試験を行い早期の実用化を目指す。
(3月7日付 化学工業日報)

*東芝

10月から家庭用パソコンの全国的なリサイクル制度を開始する。
(3月7日付 日経産業)

*環境省&経済産業省

自動車リサイクル法の施行に向け、解体、破碎業への許可基準として、「施設」による基準に加え、「標準作業書」による基準を導入する。
(3月7日付 日経産業)

*環境省

今月20日にPRTR法に基づく化学物質の排出量などの2001年度データをホームページで公表する。
(3月10日付 化学工業日報)

*日本化学工業

リチウムイオン電池用のコバルト酸リチウムの月産180トン設備が、フル稼働で好調。
(3月10日付 化学工業日報)

*中央環境審議会

10日、循環型社会形成推進基本計画案を纏め鈴木環境大臣に答申した。14日の閣議で決定した後、3月末までに策定する。
(3月11日付 日経産業)

*経済産業省

自動車リサイクル法に基づいた指定三品目の内、カーシュレッダーダストについて2015年までに3段階で70%までリサイクル率の向上を目指す報告書を纏めた。
(3月11日付 日経産業)

*ガートナー・データクエスト (米)

2002年の世界の携帯電話出荷台数は、4億2,300万台で、前年比6%増になった。
(3月11日付 電波)

*国内大手通信機器各社

第三世代の携帯電話向け基本ソフト (OS) を、国産OSの「トロン」をベースに共同開発する。
(3月11日付 日経産業)

*松下電池工業

アルカリ乾電池、ニッケルマンガン電池、ニッケル水素電池の高性能電池を、グローバルに市販電池でのシェアアップを図る。
(3月12日付 電波)

*最高人民法院 (中国)

2002年までの5年間に結審をした案件のうち、経済犯罪に分類されるものは、約71,200件で、前の5年間 (1993~97年) より68%増えた。
(3月12日付 日経)

*東京都

給水の安定性向上と電力経費の削減を図るため、ナトリウム・硫酸電池利用の電力貯蔵システムを2箇所の給水所で運用開始。
(3月12日付 日経産業)

*電子情報技術産業協会 (JEITA)

今年1月の携帯電話 (携帯電話、自動車電話、PHS) の国内出荷台数は、前年同月比17.2%増の383700台になった。カメラ付携帯電話が牽引。
(3月12日付 電波)

*サンディア国立研究所 (米エネルギー省関連)

リチウムイオン電池の容量を大幅に向上させる新材料を開発した。内容はシリコンと黒鉛を混合した物。
(3月13日付 日経産業)

*松下電器産業

単3形アルカリ乾電池2本で連続5枚撮影が可能で、4月18日から発売する。
(3月13日付 電波&日経産業)

*ニフロン (尼崎)

無停電電源装置 (UPS) 用ニッケル水素電池パックを開発、5月から販売を開始する。電池パック内に電圧制御回路を搭載する事で、従来の鉛電池との完全互換が実現しているのが特徴。
(3月13日付 日経産業)

*インテル (米)

無線LANに対応したノートPC用の半導体シリーズ「セントリーノ」を発表した。
(3月13日付 日経)

*IDC (米)

今年、パソコンの世界出荷台数の前年比伸び率予測を従来の8.3%から6.9%に下方修正した。最新予測では今年の世界出荷台数は1億4,563万台。
(3月14日付 日経夕刊)

*トヨタ自動車

ハイブリッドシステムの駆動用バッテリーとしてリチウムイオン電池の開発に着手した。早ければ2006年にも実用化したい考え。
(3月14日付 日経産業)

*三菱マテリアル

兵庫県・生野町を拠点に廃OA機器のリサイクル事業に着手する事を発表。年間処理量は1,000トン予定。
(3月17日付 化学工業日報)

*ソニー

アルカリ乾電池の新製品として、鉄腕アトムのキャラクターを採用し、デザインを一新、アトムの誕生日とされる4月7日から発売する。
(3月17日付 電波)

*新エネルギー・産業技術基盤機構 (NED)

2003年度から5か年で、大型風力発電基地での安定的な発電量の確保を目指し、二次電池を用いて電力系統へ影響を与えない風力発電ハイブリッドシステムの実証研究を実施する。
(3月18日付 日経産業)

*三洋電機

エネルギー変換効率をモジュールで17%に高めた太陽光発電システムを4月1日から発売する。
(3月19日付 日経産業&日経産業)

*中国国家版權局

2002年の知的所有権の違反摘発件数は5,000件、海賊版押収数は過去最高の6,790万件。中国で保護活動が本格化。
(3月20日付 電波)

*昭和電工

信州事業所の黒鉛化炉を有効活用、リチウムイオン電池用負極材の生産に乗り出す。
(3月20日付 化学工業日報)

*新神戸電機

中国/東莞市に製造子会社を新設、自動車用鉛電池の新工場を建設する旨を発表。
(3月20日付 日経、日経産業&日経産業)

*日本自動車会議所

自動車業界の各団体が東京都港区に「自動車会館」の設立を進めている。関係団体の連携強化と情報発信、国際交流の機能を持たせるのが狙い。
(3月21日付 日経産業)

*NEC、東芝&日立製作所等

ノートPC、携帯電話等の情報機器で今後用いる超小型燃料電池の規格統一に乗り出す。世界に先駆け規格を一本化し国際標準を狙う。
(3月21日付 日経)

*三洋電機

単3形ニッケル水素電池と同充電器パックの販促を強化、「乾電池から充電電池へ」のシフトを加速させる考え。
(3月22日付 電波)

*古河電池

残量を一目で確認できるテスター内蔵の自動車用バッテリーを開発、9月を目処に発売する。
(3月23日付 日経)

*セイメイケミカル

2003年6月を目処に鹿島工場の設備を増強、リチウムイオン電池正極材のコバルト酸リチウムの生産能力を増強。
(3月24日付 化学工業日報)

*電子情報技術産業協会 (JEITA)

今秋から始まる家庭用パソコンの回収・再資源化義務に対応し郵政事業庁 (4月から郵政公社) に「ゆうパック」による収集・搬送を依頼する方針を固めた。
(3月24日付 日経産業)

*携帯電話 (中国)

携帯市場で国産 (中国) メーカーが市場シェアを伸ばしている。昨年シェアは39%で17%の伸張。
(3月22日付 電波)

*NTT

携帯電話や非接触ICカードを利用して高速かつ安全に認証・決済が可能な情報流通基盤を開発した旨を発表した。今後グループ企業等と商用開発の検討に入る。
(3月25日付 日経産業)

*太陽光発電技術研究組合

産業用太陽光発電のコストが、2010年には1KW時12.8円になり、工業用電源に対抗出来る等の提言を纏める。
(3月26日付 日経産業)

*日立マクセル

25日、中東欧地域の販売会社として、ハンガリーに「マクセル・ハンガリー」を設立した。
(3月26日付 日経産業&化学工業日報)

*経済産業省

「電池技術と自動車に関する検討会」を発足、28日第一回会合を開く。電気自動車、燃料電池車、HEV等、電池駆動の自動車の現状やメーカーの取り組みについて意見交換等を行う。
(3月26日付 日経産業)

*東芝

高容量で安定性に優れたリチウムニッケル系正極を採用した次世代リチウムイオン電池の量産を開始した。
(3月26日付 化学工業日報)

*経済産業省

新時代における規格・認証制度のあり方について報告書案を纏めた。国際規格化のための対応体制整備や規格作成の迅速化等を進めるのが狙い。
(3月26日付 日経産業)

*センチュリー (PC周辺機器メーカー・東京)

携帯電話用充電器 (乾電池内蔵タイプ) を、4月から目処に順次20ヶ国に輸出する。
(3月26日付 日経産業)

*YUASA

中国・広東省の湯浅蓄電池有限公司の自動車用鉛蓄電池工場が完成、4月から生産を開始する。
(3月27日付 電波、日経産業&日経産業)

*住友金属工業

家電排ブラ、自動車シュレッダーダスト等を対象に、グループとして廃棄物ガス化溶融炉による廃棄物リサイクル事業に参入する。
(3月27日付 化学工業日報)

*電池工業会・小形二次電池再資源化推進センター

一般消費者からの小形二次電池の回収が、2002年度は前年比122%の99.6トンになった。
(3月27日付 電波)

平成15年 4月度の電池工業会活動概要

部会	委員会・会議	主な審議、決定事項
特別会議	11日(金) 一次・小形二次合同幹事会	*合同化するに際し起こりうる問題点と対応策の確認等
	15日(火) 広報展示会WG	*JBRCとの合同展示会の決定と新展示物の中味の確認
	17日(木) 広報二次電池WG	*年間スケジュールとテーマ別担当メンバーの確定
	18日(金) 広報委員会	*年間スケジュールとテーマ別担当メンバーの確定
	18日(金) EUROBAT CEO 会議	*日欧の鉛電池業界代表者会議で情報交換
	23日(水) 蓄電池設備認定委員会幹事会	*認定試験結果の確認と今後のスケジュール確認
二次電池部会	2日(水) 自動車鉛分科会	*本年度改正JIS(D5301)の構成。改正作業分担
	2日(水) (自)リサイクル特別プロジェクト	*自動車電池(二輪含む)新リサイクルスキーム検討
	2日(水) 第三者機関WG、リサイクル特別プロ合同	*自動車電池(二輪含む)新リサイクルスキーム審議
	3日(木) (自)リサイクル特別プロジェクト	*自動車電池(二輪含む)新リサイクルスキーム検討
	4日(金) 資材委員会	*再生鉛の利用について
	4日(金) 用語分科会	*審議終了間近なIEC規格(電池用語)に掲載する日本語訳について
	8日(火) 小形鉛分科会	*H14年度作成SBA(安全・取扱い指針)の解説
	8日(火) (自)市販小委員会	*新リサイクルスキーム広報について
	9日(水) (自)リサイクル特別プロジェクト	*自動車電池(二輪含む)新リサイクルスキーム検討
	9日(水) 二次電池部会(鉛5社)	*自動車電池(二輪含む)新リサイクルスキーム審議
	10日(木) 第三者機関設立準備委員会WG	*自動車電池(二輪含む)新リサイクルスキーム検討
	10日(木) 二次電池リサイクル(委)拡大事務局会議	*産業用電池新リサイクルスキーム審議・申請準備
	14日(月) (自)リサイクル特別委員会(仮称以後省略)	*自動車電池(二輪含む)新リサイクルスキーム審議
	14日(月) 充電器分科会	*SW式整流装置の規格化の検討
	15日(火) 電気車鉛分科会	*フォークリフトメーカーとの意見交換会(1月開催)の回答内容決定
	15日(火) 電気車用電池小委員会	*電気車用電池新リサイクルスキームの検討
	15日(火) 産業用電池小委員会	*産業用電池新リサイクルスキーム審議
	16日(水) (自)リサイクル特別委員会	*自動車電池(二輪含む)新リサイクルスキーム審議
	16日(水) 据置鉛分科会	*来年度改正のJIS(C 8704-2:制御弁式)の構成、改正作業の分担
	17日(木) (自)技術サービス小委員会	*今年度改正のSBA(設計者向け安全指針)の改正内容
	17日(木) 資材委員会	*再生鉛の利用について
	17日(木) 資材、(自)リサイクル特別委員会合同	*自動車電池(二輪含む)新リサイクルスキーム審議
	21日(月) (自)リサイクル特別委員会	*自動車電池(二輪含む)新リサイクルスキーム審議
	21日(月) 産業電池技術サービス分科会	*蓄電池設備の部品交換に関する調査と更新促進リーフレットの検討
	22日(火) (自)リサイクル特別委員会	*自動車電池(二輪含む)新リサイクルスキーム審議
	22日(火) (自)直需小委員会	*自動車用電池の新リサイクルスキームについて
23日(水) (自)リサイクル特別委員会	*自動車電池(二輪含む)新リサイクルスキーム審議	
23日(水) 電気車用電池統計分科会	*15年1～3月の実績と市場動向の確認	
23日(水) 産業用電池統計分科会	*14年下期の実績と市場動向の確認及び15年上期の需要予測	
23日(水) 二次電池リサイクル(委)拡大事務局会議	*産業用電池新リサイクルスキーム審議・申請準備	
小形二次電池部会	7日(月) IEEE対応WG	*IEEE対応WGの活動主旨と計画、主査選任等
	8日(火) アルカリ分科会	*回収率アップの検討など平成15年度活動計画の審議
	15日(火) リチウム2次分科会	*H15年度活動計画、IEV用語和訳審議、JIS原案、IEC回答原案の審議
	18日(金) ニカド・ニッケル水素分科会	*H15年度活動計画、IEV用語和訳審議、JIS原案、IEC回答原案の審議
	22日(火) 再資源化委員会	*産業構造審議会ガイドライン対応、平成15年度活動計画の審議
	25日(金) 業務委員会	*統計資料に関する課題の整理等の審議
一次電池部会	3日(木) 部会幹事会	*一次電池環境課題をよりシビアな視点で総合的に取り組むことを決定
	9日(水) 循環技術委員会	*6月の技術調査(見学・情報交換会)実施内容を決定
	10日(木) 一次電池部会	*環境課題の取り組み、EU指令改定案への意見書の内容を審議・確認
	16日(水) 環境対応委員会	*一次電池の環境課題の取り組み方について審議を実施
	23日(水) JIS小委員会	*H15年度活動計画、JIS「一次電池通則」改正審議
	23日(水) IEC小委員会	*H15年度活動計画、IEV用語和訳審議、IEC回答原案の審議
25日(金) 業務委員会	*H15年度活動計画の決定と新テーマ(環境関係)への対応策の模索	

.....● 新製品ニュース ●.....

鉄腕アトム誕生と同時に新登場!

アトムが用途をナビゲートする乾電池シリーズ新発売

ソニー株式会社の乾電池が“鉄腕アトム”の誕生日、4月7日に合わせて大きく生まれ変わりました。アナログ機器からデジタル機器まで、現在電池の使用機器は多種多様化しています。「どの機器にどの電池を使えばよいのか?」といったユーザーの混乱の解決を目指して、ソニーは汎用性の高いアルカリ乾電池と用途別の電池を発売し、使い分けをわかりやすく提案します。今回そのナビゲーター役として、パワーや先進性からアトムを起用しました。

— 特長 —

1. Good Choice! マークで電池の特徴をわかりやすく表示

2. アルカリ乾電池の保存後の特性をアップ※1

アルカリ乾電池単3形は、1年後も以前より性能劣化しにくいよう材料・組成などを改良。

※1 放電条件1500mA、終止電圧0.9Vの放電において、当社従来品比約10%アップ(当社調べ)

3. リモコン用電池には

仕様開始月チェックバーをプラス

電池本体の1から12の数字に、仕様開始月を油性ペンでチェックすれば交換の目安に便利。

4. 未使用が一目でわかる新包装「フレッシュキャップ」を採用(単3形・単4形シュリンクパック)

5. 使いたい本数だけ取り出せる「フレッシュパック」採用(プリスターパック)

ヘッドを切離せるパッケージで携帯にも便利(単3形プリスターパック)



世界初! テスター機能付き自動車用バッテリーを開発 ～バッテリー本体にテスターを搭載～

古河電池株式会社(社長:今井雅也)はこの度、小型テスターをバッテリー本体と一体化することに成功しました。バッテリー本体の大きさは従来品と変わらず、03年上期より発売を開始いたします。商品名は“FGUARD(エフガード)”です。

【開発の経緯】

当社アンケート調査によると、ユーザーがバッテリー交換をする第一の理由は「バッテリーあがり」「バッテリーの不具合」で、全体の70%を占めていました。このトラブルを未然に防ぐため、一般ドライバーの場合には、SSやカーショップ等で点検をするか、テスターを購入するなどの方法しかありませんでした。

そこでバッテリー本体にテスター機能をつけることで、ドライバー自身が点検できる商品の開発を目指し、今回ミトロニクス社(本社:米国)のコンダクタンス技術(抵抗の逆数による算出方法)応用した結果、形状の小型化を実現、「世界初の小型判定装置搭載バッテリー」の製品化に成功しました。

【製品の特長】

バッテリー本体に小型テスターを埋め込み(世界初)、ドライバー自身が簡単にバッテリー状態をチェック、正確な良否判定と充電状態を瞬時に判定することが可能。

【今後の計画】

03年上期 5機種10タイプを発売開始

販売予定数量 75,000個



FGUARD

2月度電池および器具販売実績(機械統計)

(平成15年2月)

単位:数量=千個、金額=百万円(本年よりマンガン乾電池の単二がその他に含まれました)

	単月				1月~当月累計			
	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比
電池・器具総合計	486,881	55,638	110%	103%	922,681	109,811	107%	106%
全電池合計	486,194	54,493	110%	104%	921,151	107,334	107%	107%
一次電池計	354,318	12,020	113%	109%	661,302	22,167	109%	105%
マンガン乾電池計	75,174	1,481	92%	89%	142,487	2,787	87%	86%
単一	9,574	474	107%	102%	17,975	890	97%	95%
単三	40,533	563	93%	88%	70,966	999	80%	79%
その他	25,067	444	85%	80%	53,546	898	94%	86%
アルカリ乾電池計	105,173	5,248	121%	112%	194,050	9,572	118%	108%
単三	66,181	2,836	123%	115%	122,745	5,166	122%	112%
単四	21,123	963	110%	98%	38,912	1,739	106%	93%
その他	17,869	1,449	130%	118%	32,393	2,667	119%	112%
酸化銀電池	78,386	897	116%	117%	147,566	1,682	107%	106%
リチウム電池	90,923	4,193	126%	113%	167,764	7,723	126%	110%
その他の乾電池	4,662	201	97%	91%	9,435	403	102%	107%
二次電池計	131,876	42,473	103%	103%	259,849	85,167	104%	107%
鉛電池計	3,163	11,112	93%	91%	6,484	22,665	97%	97%
自動車用	1,889	5,707	102%	94%	3,921	12,374	105%	99%
二輪用	378	751	96%	99%	767	1,511	101%	103%
小形シール	671	811	77%	85%	1,349	1,622	79%	92%
その他	225	3,843	84%	88%	447	7,158	94%	95%
アルカリ電池計	72,837	8,959	83%	76%	142,200	17,688	84%	84%
完全密閉式	37,550	4,276	100%	99%	73,748	8,590	101%	103%
ニッケル水素	35,242	4,318	70%	62%	68,374	8,448	71%	72%
その他のアルカリ電池	45	365	205%	75%	78	650	205%	81%
リチウムイオン電池	55,876	22,402	152%	129%	111,165	44,814	151%	128%
器具計	687	1,145	97%	80%	1,530	2,477	95%	88%
携帯電灯	358	372	106%	105%	781	814	94%	105%
電池器具	329	773	88%	72%	749	1,663	97%	82%

2月度電池輸出入実績(財務省貿易統計)

(平成15年2月)

単位:数量=千個、金額=百万円(少数以下四捨五入の為、合計が合わないことがあります)

	単月				1月~当月累計			
	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比
全電池合計(輸出)	258,750	27,300	106%	104%	491,703	51,586	104%	101%
一次電池計	147,315	3,232	108%	112%	279,980	5,956	107%	103%
マンガン	37,204	344	77%	90%	77,219	692	87%	97%
アルカリ	21,586	479	162%	207%	36,743	797	131%	156%
酸化銀	29,792	360	102%	96%	59,096	751	100%	99%
リチウム	57,180	2,013	130%	109%	103,525	3,621	127%	99%
空気亜鉛	1,306	24	74%	66%	2,812	48	64%	55%
その他の一次	247	13	198%	63%	586	48	87%	76%
二次電池計	111,435	24,068	104%	103%	211,723	45,630	102%	100%
鉛蓄電池	325	697	84%	88%	601	1,276	77%	90%
ニカド	31,571	2,725	109%	91%	59,118	5,264	103%	92%
ニッケル鉄	8	1	304%	33%	8	1	246%	27%
ニッケル水素	27,410	2,605	75%	73%	50,703	5,127	70%	73%
リチウムイオン	42,079	15,728	144%	115%	80,680	29,710	144%	110%
その他の二次	10,043	2,312	83%	102%	20,613	4,251	99%	99%
全電池合計(輸入)	56,350	3,520	140%	108%	122,012	8,073	156%	106%
一次電池計	52,867	920	142%	96%	114,195	2,354	158%	108%
マンガン	16,026	181	157%	117%	30,887	382	150%	130%
アルカリ	33,909	626	138%	107%	77,133	1,415	162%	124%
酸化銀	41	1	14%	14%	150	3	19%	16%
リチウム	845	52	116%	73%	1,905	150	126%	77%
空気亜鉛	567	16	88%	66%	1,224	37	123%	101%
その他の一次	1,479	45	155%	38%	2,896	367	270%	75%
二次電池計	3,483	2,600	113%	114%	7,817	5,719	133%	106%
鉛蓄電池	488	1,288	123%	115%	1,014	2,904	107%	104%
ニカド	1,917	307	226%	88%	4,423	686	198%	88%
ニッケル鉄	0	1	4%	39%	0	1	0%	19%
ニッケル水素	-	-	-	-	-	-	-	-
リチウムイオン	-	-	-	-	-	-	-	-
その他の二次	1,077	1,004	59%	122%	2,380	2,128	88%	116%